

令和4年度  
新潟県病虫害発生予察速報第7号  
(斑点米カメムシ類の発生状況)

1 斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況(7月下旬)

(1) 水田畦畔におけるカメムシの種類別発生量(表1、2)

- ・アカスジカスミカメは県全体では確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数は平年比やや少ない。下越地域の確認地点率は平年比やや高い。
- ・アカヒゲホソミドリカスミカメは、県全体の確認地点率は平年並、すくい取り虫数は平年比やや少ない。上越地域のすくい取り虫数が平年比多い。
- ・オオトゲシラホシカメムシは、県全体の確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数は平年比やや少ない。魚沼地域の確認地点率は平年比やや高い。佐渡地域の確認地点率は平年比高く、すくい取り虫数は平年比多い。

(2) 出穂したメヒシバ等のイネ科雑草が多い畦畔でアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメが多く生息している事例が見られる。

(3) 7月28日現在、北陸地方では向こう1か月間の気温は高く推移すると見られる。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(単位：%)

種 類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカ スミカメ	<b>本 年</b>	<b>28.6</b>	<b>8.3</b>	<b>14.3</b>	<b>28.6</b>	<b>8.3</b>	<b>44.4</b>	<b>21.3</b>
	前年(令3)	35.7	30.8	35.7	15.4	25.0	33.3	29.3
	平 年	19.6	31.9	32.6	24.6	22.5	41.1	28.0
	平年比	やや高	低	やや低	並	低	並	やや低
アカヒゲホ ソミドリカ スミカメ	<b>本 年</b>	<b>42.9</b>	<b>41.7</b>	<b>35.7</b>	<b>42.9</b>	<b>33.3</b>	<b>0.0</b>	<b>34.7</b>
	前年(令3)	50.0	53.8	57.1	38.5	16.7	11.1	40.0
	平 年	48.4	46.0	52.7	43.6	27.2	24.4	41.0
	平年比	並	並	やや低	並	並	やや低	並
オオトゲシ ラホシカメ ムシ	<b>本 年</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>14.3</b>	<b>21.4</b>	<b>8.3</b>	<b>22.2</b>	<b>10.7</b>
	前年(令3)	0.0	15.4	14.3	7.7	8.3	0.0	8.0
	平 年	5.8	8.3	20.4	13.3	25.0	5.6	13.2
	平年比	やや低	やや低	やや低	やや高	やや低	高	やや低

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数(単位：頭/地点、20回振り)

種 類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカ スミカメ	<b>本 年</b>	<b>0.8</b>	<b>0.1</b>	<b>1.1</b>	<b>2.3</b>	<b>2.1</b>	<b>3.8</b>	<b>1.1</b>
	前年(令3)	1.0	7.8	11.2	1.1	0.9	5.4	5.3
	平 年	1.6	7.4	7.8	2.9	1.7	5.5	5.0
	平年比	並	やや少	やや少	並	並	並	やや少
アカヒゲホ ソミドリカ スミカメ	<b>本 年</b>	<b>3.7</b>	<b>3.3</b>	<b>6.1</b>	<b>1.9</b>	<b>4.3</b>	<b>0.0</b>	<b>3.7</b>
	前年(令3)	3.1	13.7	15.6	1.7	0.3	0.2	8.1
	平 年	2.8	9.1	8.0	7.0	1.2	1.2	6.0
	平年比	並	やや少	並	やや少	多	やや少	やや少
オオトゲシ ラホシカメ ムシ	<b>本 年</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>0.2</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>	<b>0.1</b>
	前年(令3)	0.0	0.6	0.3	0.2	0.2	0.0	0.3
	平 年	0.1	0.2	0.4	0.3	0.4	0.1	0.3
	平年比	やや少	やや少	並	並	やや少	多	やや少

注1) 表1, 2は畦畔すくい取り調査の結果(病虫害防除所巡回調査、75地点、7月下旬)  
 注2) 表1, 2の網掛けは、表1では確認地点率が平年比やや高～高、表2では確認虫数がやや多～多となったもの。

## 2 当面の対応と注意事項

斑点米カメムシ類主要加害種のうち、カスミカメムシ2種(アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)の発生量は斑点米の発生に大きく影響する。

過去10年中9年で斑点米の発生が多く、平年値が高くなっているため、カメムシの虫数が平年より少なくても斑点米が多発生する場合がある。このため、以下の対策を徹底しこれらのカメムシの増殖を抑制する。

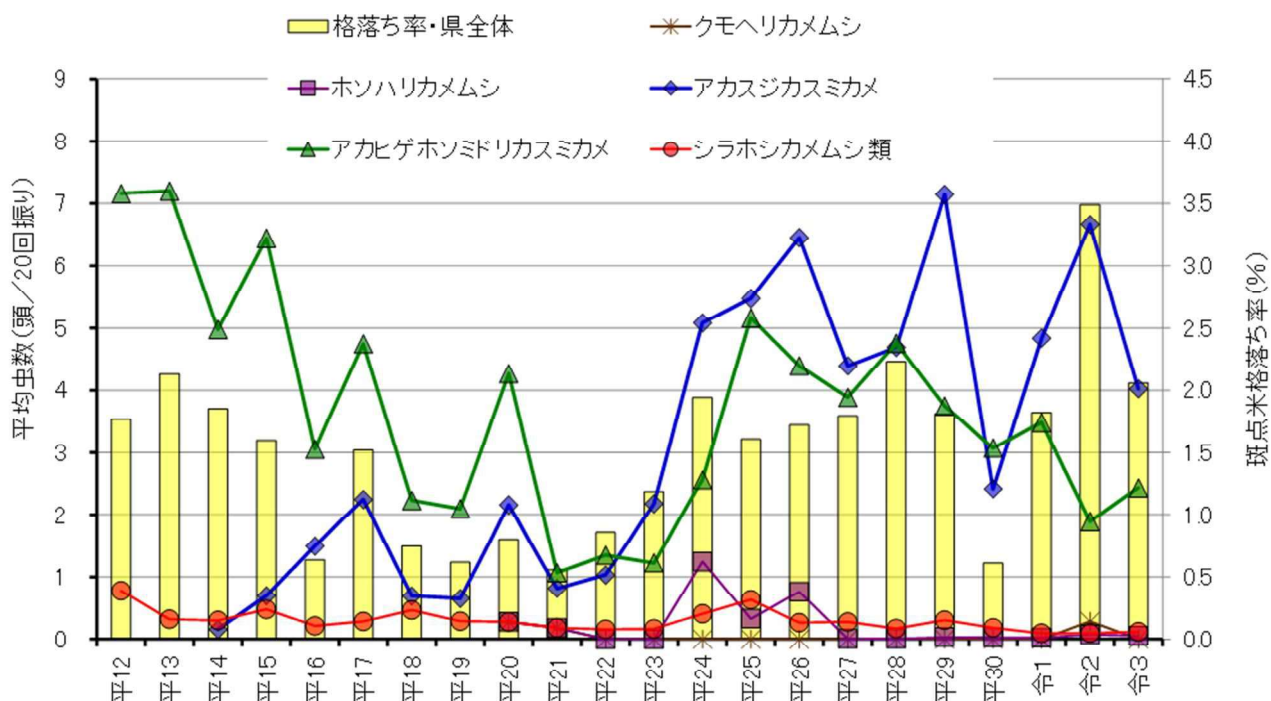


図1 斑点米カメムシ類主要加害種の水田畦畔における発生量と斑点米格落ち率の年次推移

※平均虫数は6月後半～8月後半の平均

### (1) 水田周辺の雑草管理

ア カスミカメムシ類は、メヒシバ、ナギナタガヤ、スズメノテッポウ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖する。畦畔・農道等の除草を徹底し、斑点米カメムシ類の増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らす。

イ イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りを繰り返すことで、畦畔雑草地での斑点米カメムシ類の密度を低く抑えることができる。また、斑点米カメムシ類を対象とした薬剤防除実施前に草刈りを行うことで防除効果を高めることができる。

ウ 水稻の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続する。

### (2) 水田内雑草の管理

水田内雑草(ノビエ、イヌホタルイ等)の繁茂・結実は、斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を助長する。

水田内のノビエ等イネ科雑草の穂はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミ

カメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシを誘因するので結実前に除去する。

特に水稻の出穂期頃の水田内に開花したイヌホタルイが多いとアカスジカスミカメが侵入しやすく、被害が大きくなるため早めに除去する。

### (3) 適期の薬剤防除の実施

ア 品種ごとの防除適期に合わせ、確実に薬剤防除する。出穂時期を確認し、防除適期を逸しないよう注意する。

イ 散布回数、時期は使用する防除薬剤の種類によって異なる。粉・液剤の1回散布の場合は出穂期3日後頃～7日後、2回散布の場合は出穂期の7日後と、さらにその7～10日後である（カメムシの種類や、薬剤の種類に応じた散布回数の考え方は、令和4年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参照）。

ウ 粒剤の散布適期は出穂期～出穂期7日後である。水深3cm程度の浅水で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。散布日はできるだけ好天が予想される日を選び、多雨や低温、日照不足が予想される場合は散布を控える。

エ 共同防除実施地区での極早生品種など、出穂期が共同防除実施日より10日以上早いと予想されるほ場では、防除実施前の加害が懸念されるので、共同防除の7日前頃に追加防除する。追加防除では共同防除とは異なる系統の薬剤を使用する。